

MIIC.

CHEMISTRY CO., LTD.

ミック・ケミストリー NEWS

発行日 2001 年 12 月 1 日 No.2

株式会社ミック・ケミストリー

神奈川県座間市ひばりが丘 5-802-11

TEL:046-253-1417/FAX:046-253-4855



秋から冬の皮膚



皮膚のうるおいのカギを握る天然保湿因子（NMF）と皮脂にも季節による変化があらわれます。特に皮脂分泌が減少します。皮脂量については額の分泌量が夏を100とすると、春秋は75、冬は50以下になり皮脂量が減少し外的な刺激に対する防御力が弱まり、また乾燥しやすい状態になっています。汗の量も少なくなります。皮膚からは目に見えない形で汗が蒸発しています。この量も夏を100とすると、春秋は74、冬は56位です。秋から冬の皮膚は発汗もかなり不活発になっています。皮膚のpH値を見ると夏は4.06、春秋は5.06、冬は5.41と確かに酸性度は夏と比べると低くなりますが、それでも弱酸性に保たれていますので健康な状態の皮膚であれば微生物などに対する抵抗力も問題ありません。

お客様からの質問

Q1：寒くなると手や指が荒れます。お手入れ方法を教えてください。

A1：手や指先は、ものに触れたりして汚れやすく、冬は特にカサつき、荒れやすいところです。油分を補って手指を保護するために化粧油・クリーム・乳液は欠かせません。手の汚れを洗い流した後や水仕事などの前後にクリームなどを塗り、軽くマッサージしてしなやかな美しい手指を保ちましょう。マッサージはらせんを描くようになめらかに行い、最後に1本1本を少し力を入れて引っ張ります。みずみずしくハリのある手指は若々しい印象を与えます。

Q2：冬になるとファンデーションをつけてもきれいに仕上がりにません。

A2：夏の日焼けなどの影響で肌の水分が失われカサついた状態になっているのでしょう。パックやマッサージなど保湿を心がけたスキンケアを行い、肌にうるおいを与えることが必要です。まだ夏のサッパリした使い心地の化粧品を使用している場合は、保湿効果の高いものに切り換えましょう。朝夕は気温が低くなりました。寝る前やメイクの前に美容液を加えると肌のカサつきを防ぐことができます。自分の肌の状態や季節による環境の変化をよく知って、肌に合った化粧品を選ぶことが大切です。



化粧品の歴史 その1

【世界の人類の中で化粧をしない人間は存在しない】といわれています。衣料を持たない人類は存在しても「塗る・装う」という文化は全ての人類がもっているといえるでしょう。

このような『化粧』という文化は、いつごろから始まったのでしょうか？スペインにアルタミラという洞窟があります。これは旧石器時代 氷河期の洞窟で、今から四万年程前のものですが、その中の壁画に初めて人間が顔や手に“赤”の色を塗っているものが見出されています。又、この洞窟からは石の上で赤い石を粉につぶした製造場が発見されています。では、何の目的で行われたのでしょうか？現在私達は、化粧は『美の演出』だと考えているのが普通です。しかし、これは大変な錯覚です。美とは何かを考えると時代により、民族により、年齢により、非常に美に対する意識・基準が異なります。現在のアイシャドウをとってみても、老人はパンダを連想し、若い人は美しいと思います。眼のヘリを『くまどる』ことは顔の彫りを深める化粧であり、白人系の化粧です。日本人は大体コケシ型の顔型ですが、それが眼だけ強調すれば眼だけ凹んでしまいます。つまり老人の感覚の方が美的には正しいかもしれません。

しかし、若者にとっては、やはりどこかに自己顕示欲という、自分を引き立たせよう、目立たせようという意識が先立ち、美しくありたいと工夫した結果がパンダ型の化粧なのです。“美しさ”の基準は人によって違います。例えば赤い色は魔除けの色です。この魔除けの色をみんなが塗った。唇を赤く塗るのは口から悪魔が入るのを防ぐためです。この唇の色を皆が綺麗だと思ふようになったのです。きれいになりたいという動機が美意識を成長させてきたともいえます。

化粧は自己を表現する一つの方法なのです。

～次回は『化粧の目的について』ふれてみます。～



【お知らせ】 年末に向けて配送関係が大変込み合い、商品の到着が遅れることが予想されます。御注文がございましたら、お早めにお申し付け下さい。

● 年内の御注文受付：12月10日（月）まで、年内の最終出荷日：12月27日（水）です。

※ 新年は1月5日（土）より通常通り営業致します。

